



富岡製糸場で生まれた日仏交流の縁 ブル・ド・ペアーージュ市を軸とした富岡市における日仏交流

富岡市世界遺産部富岡製糸場戦略課

ブル・ド・ペアーージュ市と友好都市へ

フランス共和国ブル・ド・ペアーージュ市は、富岡製糸場の設立指導者であったフランス人技師ポール・ブリュナ氏の生誕地です。2015年11月に富岡市は同市と友好都市となりました。

同市とのつながりは、1872年の富岡製糸場設立までさかのぼりますが、それ以降、交流が始まるまでには、100年の時を経ることになります。

1972年に、NHKのドキュメンタリー取材班がブル・ド・ペアーージュ市に入ったことがきっかけとなり、富岡製糸場設立100周年を記念して、日本国外務省経由で、当時のブル・ド・ペアーージュ市から富岡市に記念メダルが贈呈されました。

それから三十余年が過ぎた2008年より、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録推進活動の一環にて、富岡市における日仏交流事業が動き始めました。

2011年に、企画展「絹の歴史と富岡製糸場」がブル・ド・ペアーージュ市および隣接するコミューン（フランスの基礎自治体）であるロマン・シュル・イゼール市にて開催され、当時クレアパリ事務所に派遣されていた富岡市職員が富岡製糸場の歴史について発表を行い、富岡製糸場の世界遺産としての価値を発信しました。

このように、世界遺産登録へ向けた学術研究を中心としてブル・ド・ペアーージュ市との交流を積み重ねてきましたが、2014年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録され、その翌年に外務省在リヨン領事事務所主催の富岡製糸場世界遺産登録記念大型文化事業「絹が結ぶ縁」が開催されることになり、この事業に合わせて同市との友好都市協定を締結することができました。今まで積み重ねてきた交流を、世界遺産登録を契機として一気に加速させ、友好都市協定を締結した例は全国的にも珍しいと思われます。



友好都市協定締結式

ブル・ド・ペアーージュ展の開催と交流の深化

富岡市では、友好都市協定の締結を記念して、世界遺産・国宝である富岡製糸場東置繭所において、昨年10月に「友好都市協定締結記念事業 ブル・ド・ペアーージュ展～周辺地域の歴史的産業に光をあてて～」を開催しました。

本企画展は、富岡製糸場と関連の深いブル・ド・ペアーージュ市および周辺地域の「産業」に焦点を当て、富岡製糸場の歴史的価値を伝えていくと同時に、富岡製糸場を活用した観光戦略の一環として展開していくものです。

企画展では、交流の原点であるポール・ブリュナ氏の関連資料をはじめ、ブル・ド・ペアーージュ市の主要産業であったフェルト帽子にまつわる資料の展示を行いました。また、同市の周辺地域からも展示品を借用しました。例を挙げると、富岡製糸場への300釜の繰糸器の部品供給および現地における組み立てのための作業員の派遣に関する1871年の契約書原本（セルドン銅工場より借用）、日本産の生糸輸送に用いられた20世紀ごろとされる生糸を梱包する包み（ボネ絹工場より借用）や、ファイナル・ファンタジーのキャラクターデザイン

で有名な天野善孝氏がデザインしたマドレーヌ・ヴィオネのストール（ボネ絹工場より借用）など、貴重かつ個性溢れる資料を紹介することができました。

なお、セルドン銅工場は、この契約書の契約者である「マン・エ・フィス社」を起源としており、また、ボネ絹工場（現アン県の博物館）は、富岡製糸場のモデル工場と考えられているなど、歴史的に深いつながりがあります。

また、本企画展は、富岡市で2年に1度開催される「富岡どんとまつり」と合わせて開催され、オープニングセレモニーには、ブル・ド・ペアージュ市のナタリー・ニエゾン市長および2名の市議会議員を招へいすることができました。また、駐日フランス大使館からは、ポール＝ベルトラン・バレッツ公使に参列いただき、両市の交流に力強い後押しをする旨、あいさつの中でお示しいただきました。



ブル・ド・ペアージュ展オープニングセレモニー

本企画展の成果としては、会期中に約8万人の市民を含む来場者が富岡製糸場を訪れ、ブル・ド・ペアージュ市の特徴や、富岡製糸場におけるフランスからの技術移転の歴史を発信する好機になったことが挙げられます。また、展示期間中、ブル・ド・ペアージュ市民が遠くフランスより富岡を訪問してくださるといううれしい出来事もありました。

そして、友好都市であるブル・ド・ペアージュ市との交流を深められたことが何よりの成果であると言えます。3名の訪問団には、本企画展の内覧をはじめ、富岡どんとまつりへの参加や、お茶体験や日本酒の試飲など日本の文化を体験いただきました。

ナタリー・ニエゾン市長および2名の市議会議員は、これら一連のおもてなしに感激され、帰国後、早速富岡市との交流内容を公式ホームページに掲載してください

ました。

面的な都市交流への展開

ブル・ド・ペアージュ市以外にも、富岡市とつながりのあるフランス都市があります。先ほど少し説明したセルドン銅工場の位置するセルドン村、ボネ絹工場の位置するジュジュリユー村、2つのコミューンが位置するアン県、富岡製糸場の創業時、生糸が全量輸出されていたリヨン市などです。

ブル・ド・ペアージュ市との交流を中心に据えつつ、これらの都市や博物館とも連携と交流を進めることによって、フランス国内で点在していたネットワークを線で結び、面的交流という形で、経済面や観光面も含めて活性化できるのではないかと考えています。

日仏交流のエネルギーをまちづくりへ

われわれは、交流事業を一過性の取り組みで終わらせることなく、富岡製糸場周辺のまちづくりにも波及させることが大切であると考えています。

例えば、「春のとみおかフランス祭ア群馬」というマルシェを中心としたフランスイベントを、(一社)群馬日仏協会と連携しながら実施し、市民におけるフランスへの愛着心および国際感覚の醸成を図っています。

また、地元の鉄道会社である上信電鉄と協力し、フランスワインをソムリエと味わう「ワイン列車」を実施し、公共交通の利用促進にもつなげています。

富岡製糸場を日仏交流の拠点、そしてプラトホームへ

「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」改訂第4版に、初めて富岡製糸場が1つ星で掲載されました。今後も、たくさんのフランス人に富岡製糸場を訪れていただき、歴史に思いを馳せていただければ幸いです。

フランス人の技術によって建てられた富岡製糸場は、過去から現在、未来にわたり日仏交流を推進し、プラトホームを形成する素地を秘めていると考えられます。

今後は、ブル・ド・ペアージュ市との交流を軸にしつつ、ほかのフランス都市や関係機関、在外公館などのネットワークを構築し、日仏交流の拠点およびプラトホームとしての役割が担えるよう、富岡製糸場の整備活用を進めていきたいと考えています。